

学校法人光華女子学園

2023年度事業計画書



健やかな明日が華ひらく

目 次

I. 経営方針

1. スローガンと校是
2. 2023年度経営方針策定にあたっての基本的な考え方
3. 2023年度経営重点項目
4. 2023年度経営方針数値目標

II. 主な事業計画の概要

(1) 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 京都光華高等学校との高大接続
- ③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

(2) 教育・研究の質・体制の充実

- ① 学部・学科・研究科等の将来構想
- ② 基幹研究の展開（研究力の向上、人材育成支援事業の獲得）
- ③ 学修・学生支援体制の向上
- ④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立
- ⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化
- ⑥ 就職・キャリア開発・地域連携への支援強化
- ⑦ 研究支援体制の充実
- ⑧ キャンパスのグローバル化の推進
- ⑨ 図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター
光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画

(3) 経営基盤の強化

- ① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動
- ② ガバナンスコードの策定と運用
- ③ SD実施強化の検討
- ④ 大学・短大における基金の設立

(2) 高等学校・中学校

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 体験・探究学習×教科学習×Edtech
- ③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方
- ② 働き方改革に向けて

(3) 教育環境の充実

- ① ハード面、ソフト面での環境整備

- (4) 経営・運営基盤の強化
 - ① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動
 - ② 高大接続・連携の強化

(3) 小学校

- (1) 光華一貫教育の創造
 - ① 建学の精神に基づく宗教教育
 - ② 体験・探究学習×教科学習×EdTech
 - ③ 言語活動と異文化理解教育
- (2) 教育研究体制・質の向上
 - ① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方
 - ② 幼小連携教育の充実
 - ③ 働き方改革に向けて
- (3) 教育環境の充実
 - ① ハード面、ソフト面での環境整備
- (4) 経営・運営基盤の強化
 - ① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動
 - ② 収支改善に向けて

(4) 幼稚園

- (1) 光華一貫教育の創造
 - ① 建学の精神に基づく宗教教育
 - ② 魅力ある光華教育の構築
 - ③ 効果的な教育手法の研究
- (2) 教育研究体制・質の向上
 - ① 満3歳児保育の充実・拡大と将来構想
 - ② 活気ある教職員体制づくり
- (3) 教育環境の充実
 - ① ハード面、ソフト面での環境整備
- (4) 経営・運営基盤の強化
 - ① 志願者増・入園者確保につながる戦略的募集・広報活動
 - ② 0歳児からの子育て支援活動の推進
 - ③ 就労家庭のニーズに寄り添う預かり保育と課外教室の充実
 - ④ 内部進学増につなげる幼小連携の充実（内部進学率25%）
 - ⑤ 収支改善に向けて

(5) 学園

- (1) 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）
- (2) 2023年度事業活動収支の改善
- (3) 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得
- (4) 事務局の組織再編と職員力の強化
- (5) 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化
- (6) NPO法人（京都光華アカデミック&スポーツクラブ）の事業展開
- (7) 各種団体との連携

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画
2. 設備整備計画
3. ICT教育環境の整備

Ⅳ. 2023年度予算

1. 2023年度事業活動収支予算

I. 経営方針

1. スローガンと校是

スローガン	見過ごさない
校是	Students & Parents Satisfaction の向上
人材育成	思いやりの心と創造力 を兼ね備えた人材の育成

2. 2023 年度経営方針策定にあたっての基本的な考え方

これまで光華ビジョン 2030 実現に向け中期計画（ACT）を 3 年間取り組んできたが、残念ながら 2023 年度の新入生は 648 名であり、コロナ禍で迎えた 2021 年の 758 名を下回り過去最低の数字となる（925 名→758 名→789 名→648 名）。まさに学園存亡の危機と言える状況であり、2023 年度は学生生徒児童園児の獲得に向けた**募集広報活動と教育改革**を最優先事項とする。特に大学・短期大学部の学生数減が著しく、経営に及び影響が大きいことから大学・短期大学部の新入生回復に向け全力で取り組みたい。

	2019	2020	2021	2022	2023
大学院・大学	553	520	440	425	393
短大	93	101	55	82	56
高校	140	143	122	139	95
中学校	36	43	35	44	27
小学校	29	45	39	32	34
幼稚園	71	73	67	67	43
計	922	925	758	789	648

コロナ前（2020 年）の新入生数 925 名への回復

(1) 光華ビジョン 2030 と ACT（中期計画）で具体化した光華ブランドの再確認

経営理念	光華教育に対する信頼性の堅持と社会への貢献	建学の精神を体現する女性の輩出と社会での活躍
経営目標	知性豊かで品位のある女性を育む教育と先進的な教育の融合が評価され、ワクワク感が漲る地域のプラットフォーム校として認知される総合学園	人と人をつなぐ光華人材の育成 光華が核となる地域創生
経営戦略	Society5.0 時代を切り拓き SDGs の実現を担う光華教育	光華一貫教育の創造（宗教、英語、教育手法） 教育体制・質の向上 教育環境の充実 経営・運営基盤の強化
光華ブランド	人々の健康と未来を創造する学園（健康・未来創造キャンパス）	Well-Being for future

(2) 学生生徒等の募集回復に向け、「当たり前のことのできているのか」という基本をもう一度確認する

①教育

- ◇建学の精神を意識し職務を遂行しているか
- ◇Students & Parents Satisfaction の向上につながっているのか（学生生徒等ファースト）
- ◇学力がついているのか、心を育てられているのか

②教育課程・募集

- ◇受験生や社会のニーズを把握し、学校の特色に反映できているか
- ◇特色を具体化し、受験生に分かりやすく魅力あるものとして伝えられているか
- ◇対象の学校や塾の先生方に食い込んでいるの

③点検（PDCA）

- ◇計画したことをやりきれているか、進捗管理ができているか、結果分析をもとに改善策を策定できているか
- ◇学校評価や授業評価を活用できているか（改善に向けた取り組み、指導ができているか）
- ◇DP、国家試験、採用試験、就職、進学、TOEIC 等の進捗を管理し、目標達成に向け活動できているか

④組織文化

- ◇主体的に提案し、実施し、成果を上げる文化になっているか（部下任せ、管理職任せになっていないか）
- ◇学生生徒等の募集状況について危機感を持っているか
- ◇スピード感を持って業務に取り組んでいるか（改革を先送り、次年度回しにしていないか）

(3) 募集広報活動の方針

◎マスではなく個を対象とした募集が中心（学生生徒等や保護者との対面での募集に引き込む）

⇒個を対象とした募集につながる広報活動を展開

◎魅力ある教育の創造（学部・学科・専攻・コース・教育課程・プログラム等）をきっかけに学生生徒等を確保

↓

学生生徒等を集めている間に社会的評価を高める社会実装を積極的に実施

↓

学生生徒等が集まることに納得感が生まれる（新たなポジションを獲得）

↓

学生生徒等を集めやすい環境が生まれる

①建学の精神の具現化に向けた特色教育（心を育てる教育）を設置校の広報の基盤に据える

②募集広報活動は営業活動を重視（営業活動で受験生や対象の教員に食い込む）

◇学校・塾訪問が基本

・PR に加えガイダンス、出張講義を獲得（生徒との直接接点を獲得、進路担当部長を説明会に誘導）

・得た受験生ニーズ、社会ニーズを学校創りに反映

◇イベント（O/C、入試説明会）

来校者をしっかりと囲い込む（志願に結び付ける：志願率 50%以上が目標）

③募集活動担当部署を強化するとともに、全教職員あげて募集活動を実践する

④内部進学を重視（校同間連携を強化し、内部進学に関する目標値を必達）

⑤募集活動を支援する広報活動を展開（学校ブランドの訴求 健康・未来創造キャンパス）

⑥社会評価を高める情報発信の強化（メディアリレーションズ）

(4) 地域に愛され、応援していただける学校創り

地元である西京極周辺の方々に愛され、応援していただけない学校には学生生徒等は集まらない。このことを再確認し、西京極周辺地域と共生する学校創りを改めて進める。そのために学園の知見を地域に還元する地域連携や学校開放イベント等を積極的に行う。

(5) 建学の精神の具現者としての教職員

- ①光華の心（向上心、潤いの心、感謝の心）を持つとする心掛け
- ②**当たり前**のことを「見過ごさない」という心掛け

3.2023 年度経営重点項目

(1) 募集広報体制の強化

①大短院専：

- * **大学全体としての学生確保管理体制（教育内容、募集広報活動、結果）の徹底**
- * 入学広報センター体制の強化と全部署あがりの募集広報支援体制の整備（高校・塾訪問、ガイダンス強化）
- * 高大接続・連携の強化（出張講義、教員による高校訪問含む）
- * **内部進学**の促進（**高大接続を主体的に実施**）
- * **外国人留学生獲得に向けた取り組みの強化**

②幼小中高：

- * 入試広報部体制の強化と全教職員あがりの募集活動の実施（学校・塾訪問強化）
- * 奨学金に頼らない募集への移行
- * **内部進学**の促進（**一貫教育への意識向上**）
- * 在校園児保護者による口コミ広報への誘導

(2) 教育の魅力度向上

①大短：

- * 看護福祉リハビリテーション学部の開設と健康科学部 2 学科体制移行準備
- * 作業療法専攻と歯科衛生学科設置に係る認可申請（早期に認可を得る）
- * 新棟建設及び 5 号館リフォーム計画の実施
- * **未来創造の具体化と既存学科の教育の特色の再検討**
- * 教育の特色の裏付けとなる研究の促進
- * **地域連携・社会実装の促進（各学科でシンボリック的な柱を複数設定）**
- * 建学の精神である仏教と学科特色の融合
- * **通信教育課程の開設の具体化**

②幼小中高

- * **心を育て、学力を高める教育を徹底（光華教育の基本）**
- * 文化の一新（助け合い、協働する教職員へ）
- * 宗教教育、英語教育の充実と教育手法（光華メソッド）の明確化
- * **中高 6 年一貫教育フレームの再構築（コースや繋がり）とその浸透**
- * **小学校教育フレームの再構築（基本と特色）**
- * **幼稚園特色教育のブラッシュアップと浸透**
- * **アフタースクール、預かりの保育等保育サービスの充実（小、幼）**

(3) 収支改善

- ① 資金流失の抑制と中期収支計画の修正
 - * 不採算事業の見直しと施設等の改修の抑制（南校地への投資はなし）
 - * 学生生徒等数減少による新たな中期収支計画の策定**
- ② 人件費の適正化
 - * 学生生徒数に応じた教職員数への移行
- ③ 予算執行の厳格化
- ④ 外部資金（補助金等）の積極的な獲得
- ⑤ 資産運用益 1.5%
- ⑥ 退学者数の抑制（定員充足率、口コミでの悪評）**

(4) 人事・組織改編

- ① 幼稚園、小学校、中学校、高等学校の校園長人事
 - * 校園間連携を強化
 - * 小学校+中高一貫体制への回帰**
- ② 組織の改編
 - * 理事長室の設置（経営戦略・計画立案、マーケティング、広報機能の強化）**
 - * 大学組織の改編（女性キャリア開発研究センター、地域連携推進センター、EM・IR 部）
 - * 事務組織の改編（現状に即した組織に移行）
 - * 光華 Well-Being 推進プロジェクトの立ち上げ**

4.2023 年度経営方針数値目標／

項目		方針値	
財務指標	(2024 年度) 学生生徒等納付金収入額	3,075 百万円	
	補助金収入	817 百万円以上	
	資産運用収入額	105 百万円	
	運用利回り (運用収入/金融資産)	1.50%	
	資金収支差額	△420 百万円	
学生生徒数	2024 年度 (含む作業・歯科)	入学者数※1	922 名
		在籍者数	2,736 名
	内部進学率	幼→小	25%
		小→中	50%
		中→高	100%
		高→大短	50%
教育指標	退学率	大学	年間：1.9%以下
			初年度：2.5%以下
		短大	年間：2.6%以下
			初年度：2.2%以下
	就職率※2	大学	95%以上
		短大	90%以上
	合格率	看護師	100%
		保健師	100%
		助産師	100%
		管理栄養士	100%
		社会福祉士	70%
		精神保健福祉士	100%
		言語聴覚士	90%
		臨床心理士	85%
公認心理師		100%	
公立小学校教諭※3		80%	
公立幼稚園教諭・保育士※3	100%		

※1 目標人数 心理学研究科 10(10)／看護学研究科 5(5)／キャリア形成学科 70(75)／心理学科 48 (60) ／社会福祉専攻 18 (30) ／言語聴覚専攻 25 (30) ／作業療法専攻 30 (30) /管理栄養士専攻 85 (80) ／健康スポーツ栄養専攻 35 (40) ／看護学科 95 (85) ／こども教育学科 50 (55) ／助産学専攻科 10 (10) ／人間健康学群 6 (12) ／ライフデザイン学科 75 (85) ／歯科衛生学科 70 (70) /高校 145 (200) ／中学校 50 (50) ／小学校 45 (60) ／幼稚園 50 (70) ※ () は入学定員または募集人数

※2:就職者数÷卒業者数 (進学者・留学者等除く)

※3:採用試験合格率

以上

II. 主な事業計画の概要

1. 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

本学園は「仏教精神、特に親鸞聖人があきらかにされた真宗の教えに基づく教育」を建学の精神とし、親鸞聖人の主著『教行信証』に由来する「真實心」を校訓とする。この建学の精神と校訓には、本学園で学ぶ者が、自己を省みる「智慧」と、その智慧によって導かれる他者に対する想像力「慈悲」を、その生涯において実践する者であってほしいという願いが込められている。本学は、このような人間形成を基盤とした実学教育の高等教育機関として、次の時代を切り開く女性を育成することを使命とする。その使命を果たしていくにあたり、2023年度は以下の項目に取り組む。

・学園宗教教育推進タスクフォース：各設置校での宗教教育の取り組みを体系化し、建学の精神に示される智慧と慈悲を自らの中に育む人間形成のありようを学園の一貫教育として明示化する。今年度は小学校の「宗教」で用いることができるワークブックの作成を目指す。

・真宗大谷派と連携した仏教、真宗の別科の設置準備：本学が強みとする女子教育と医療福祉系と協働した学びを可能とする真宗を学ぶ別科を開設できるよう、本年も真宗大谷派と調整を進める。

・建学の精神の具現化（「心の教育」の共有）：本学が基盤とする人間教育、すなわち智慧と慈悲を育む「心の教育」は一つの取り組み、一科目の授業によって達成されるものではない。建学の精神の具現化にあたっては、本学の教育訓「薫習」に示されるように、教職員自身が智慧と慈悲の実践者であることが求められる。教職員が仏教、真宗の考え方に触れられる機会を増やせるよう宗教部と真宗文化研究所で継続して検討を進める。

② 京都光華高等学校との高大接続

京都光華高等学校普通科の2コース（医療貢献コース、未来創造コース）と専門学科（国際挑戦科）とのスムーズな教育接続を目的に連携を強化する。放課後の学び「ビュッフエ講座」への講座提供を積極的に行うとともに、各学科・専攻の専門教育の体験機会を創出し、将来の夢や目標に対して適切な進路選択の一助につなげるとともに、内部進学を促進する。さらに、リベラルアーツ科目を中心に実施している高大連携科目を将来的に拡充し、各コースに関連する専門教育における早期履修制度の枠組みの導入に向けた検討を始める。

内部進学促進のための各種イベントについては、進路決定の早期化傾向に合わせ、低学年段階から計画的に実施し、併設大学の学びの魅力や雰囲気をもっと身近なものとして結び付け検討する機会や、内部進学決定者を対象とした入学前教育プログラムを各学科・専攻ごとに実施し、内部進学率の向上を図る。

③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

論理的な思考力・判断力・表現力の育成を目的とした光華メソッドを具現化し、光華一貫教育の推進について支援と連携を深め、共同研究の成果を全国に発信することで併設校と往還的な協働研究ができる総合学園としての強みを示すとともに光華の教育力の向上を図る。光華一貫教育については、3月に第3回光華女子学園教育研究会を開催し、共同研究の成果を発信する。特に、授業力の向上、学級経営、英語教育、幼児期からの非認知能力の育成について支援と連携の拡充を図り、光華女子学園の強みを構築する。

(2) 教育・研究の質・体制の充実

① 学部・学科・研究科等の将来構想

心理学研究科

本研究科では、こころの専門家である「公認心理師」および「臨床心理士」養成を重要課題とし、現代社会のニーズにフィットした質の高い心理臨床家の養成を行う。ケース・カンファレンスとその後のフォローアップ、学内・学外での実習、スーパーヴィジョン等、院生一人ひとりに対する丁寧な個別指導を夏季・春季休暇期間も含めて継続的に実施し、心理臨床家としての柔軟な感性と対応力、専門的職業人としての素養と自覚を養っていく。さらに、修士1年生から国家試験対策を行うとともに、修士課程修了後も在籍できる研究生制度によって、「公認心理師」「臨床心理士」の両試験合格をサポートする（いずれも全国平均以上の合格率を目指す）。

修士論文等の研究指導については、全体（修士課程1・2年生合同）・グループ・個別といったさまざまな指導体制の充実、学会発表や研究紀要投稿等の研究活動の推奨により、研究の質と意欲の向上を図る。

看護学研究科

京都光華女子大学看護学研究科の特徴は、「看護職として臨床で培った経験知を、看護学の理論と応用をもって教育・研究する事により、社会のニーズに沿った保健・医療・福祉の向上に寄与するとともに看護の発展に貢献する高度な専門性を備えた人材を育成する事」である。

◆変化する社会環境の中で、自らの専門分野および他職種との連携・協働実践を基として、人々が望む「well-being」を目指した研究活動を行う。さらに臨床での「経験知」から得た研究課題を「理論知」を持って解明する。修士論文を作成する全過程において「思考・研究力」を育て、教育・実践の場で指導力や調整力を発揮できる人材を育成する。

◆授業は週2日とし、1日は対面授業で、教員や院生同士のコミュニケーションの強化を図る。他1日はオンライン授業とし、多様な授業方法の工夫によって、働きながら学ぶ看護職者のキャリアアップを支援する。

◆今後の検討課題：①通学・通信コース双方の設置、②実学の地域貢献可能性の検討

キャリア形成学部

本学部では、実践力と創造力を身に付ける多様な学びで、社会に貢献できる力を養う。現代社会学・生活科学・経営学の学びをベースに、リアルな社会課題に対して、これらの学びを組み合わせながら学生自身が課題にアプローチする様子を分かりやすく情報発信する。例えば、環境問題とファッションの組み合わせでは、企業から提供いただいた衣装としての役割を終えたドレスと家庭で不要になった着物素材を組み合わせ、ドレスをリメイクし、学生らが企画したアップサイクルファッションショーで披露する。また、高齢者福祉と世代間交流の組み合わせでは、富小路まちやキャンパスにて、孤立しがちな地域の高齢者を対象に、学生らが多世代交流会を開催する。さらに、4年間の学びの中に、女性エンパワーメント科目、長期インターンシップ、留学などを組み合わせることで、高い就業力を養成する。



健康科学部

本学部は、地域社会のあらゆる面の健康を、多職種間で協働して創造できる女性の育成、さらに、得られた成果の社会実装を目指した研究、教育手法の革新などを通して、健康科学の発展に貢献する。本年度も、大学運

営方針に沿って各学科が直面する課題の解決と、2024年度からの学部再編を見据え、各学科の特色を活かす改革に取り組む。また、「健康・未来創造キャンパス」構想に関わるプロジェクトでは中心的役割を果たす。

a.健康栄養学科

管理栄養士専攻では、管理栄養士国家試験に合格する学力を養成するとともに、より専門性に特化したメディカル栄養コース、食創造コースを開設し、現場で即戦力として活躍できる管理栄養士を育成する。健康スポーツ栄養専攻では、栄養士をベースに健康スポーツ分野と食マネジメント分野に科目を体系的に位置付け、それぞれ中高保健体育教諭・健康運動指導士の育成と、新たな食文化を創造できる人材の育成を進める。

b.看護学科

2021年度より開始した新・旧カリキュラムの同時進行が3年目に入り、適切なカリキュラム運用を継続するとともに、国家試験受験資格、養護教諭免許取得に向けた教育の充実をさらに進める。2024年度に向けた改革として、2023年度より開始した学科独自の国際交流の検討を踏まえ充実化を図るとともに、教育力の向上を目的に開始した学科FDの継続化を進める。また教育内容の再検討済みの専門職連携を実施し、さらなる充実も図る。

c.心理学科

「臨床心理」「子ども心理」（2024年度より「子ども・発達支援」に改称）「社会・犯罪心理」の3コースにおける体験的な学びのさらなる充実を図り、就職・進学につながる実践力の養成に努める。公認心理師養成に関する教育及びサポート体制を整備し、大学院進学及び公認心理師資格取得に向けた支援を強化する。保育士養成課程では丁寧な指導を通して、保育士の養成に努める。また、他学科と連携して、健康創造に関わる学びを推進する。

d.医療福祉学科

専門職連携の学びの充実に向け、授業内容の充実や学内外でのプログラムを創出する。学生募集については言語聴覚士、社会福祉士、精神保健福祉士の魅力発信に努める。言語聴覚専攻では、3年次からの国家試験対策の実施や学年縦割りグループでの学生間交流による学習法の習得を通して国家試験合格率向上を目指す。また学生募集では、専攻独自の特徴発信および外部組織との連携による言語聴覚士の啓発活動に努める。社会福祉専攻では、学生の地域活動への参加や教員の専門性を活かした地域連携の充実、国家試験合格率の向上のための本専攻独自の方策を強化する。

人間健康学群

社会的・精神的・身体的側面から社会および人の健康の維持・増進をマネジメントできる人材を育成する。個人の健康管理に関わる知識、企業の健康経営や従業員の健康管理に関わる実践力、健康に関わる社会政策を考える力を養成する。それらの養成に向けて、学部横断型・文理融合型のカリキュラムとして「福祉と政策」、「人と心理」、「食べ物と栄養」の3領域を柱とする学びを展開する。1年次から健康増進に取り組む企業、行政、地域などで体験学習を取り入れ、実社会の理解と学びの動機づけを高める。アプリを使った寄り添い英語教育、TOEICの受験指導、留学生への本学・京都の紹介、2年次の海外研修に向けた事前学習により、グローバルな視点を育む。ICT・データサイエンスのスキルを高め、情報系の資格取得支援も行う。教育実践と成果を分かりやすく可視化し、受験生、高校教員、保護者、教育機関に向けて情報発信し、本学で学ぶ価値の理解促進を図る。

こども教育学部

本学部では、仏教精神に基づく女子教育を通して、慈しみの心をもって子どもと向き合い、学び続ける教育者・保育者を育成する。また、人々の“健康”と“未来”の創造に教育が果たす役割を明確に示し、すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来社会を主体的に実現しようとする人材を育成する。そのために、大きく以下の点に焦点をあてた取組を進める。

- ・仏教教育と日常生活を新たな視点でつなぐ学びを創造する。
- ・光華幼稚園や光華小学校での実践的な学びや経験を日常的に積み重ねることができる環境を整え、学生が幼

小の系統的な教育力を身に付けることができるようにするとともに、複数の免許を同時に取得できる強みを具体的に示す。

- ・併設の光華幼稚園、光華小学校との共同研究を拡充することで光華女子学園のブランド構築に貢献する。
- ・学生が主体的に、豊かな教養や高い専門性（専門的知識・技能）および実践力を身に付けるとともに、学び続ける力を養う。
- ・英語等の言語活用能力や情報（ICT）活用能力を育成し、小学校英語指導者資格（J-SHINE認定）、認定絵本士など、資格取得の充実を図る。また、指導ツールとしての「ロイロノート」などICT活用やQFT推進をはじめ、指導力向上を図る。
- ・大学間連携や外部資金導入による研究を積極的に進めるとともに、併設の幼稚園・小学校・中学校・高等学校との共同研究を推進する。
- ・教職・保育職への就職目標として、公立幼保教諭および公立小学校教諭の合格率UPをめざし、教職・保育職支援センターやとの連携を強化する。
- ・近年の学生の教育ニーズの多様化・高度化に応えるため、京都連合教職大学院への進学を支援する。
- ・喫緊の課題である志願者数増にむけ、高大連携事業の推進と広報活動を強化する。
- ・地域に愛される光華女子大学の実現に向け、「知・徳・体」に焦点をあてた地域貢献を構想、実践する。

短期大学部

まず、2024年度からの新体制に向けて、募集・広報・開設準備を遅滞なく実施する。そのために、学科の教育内容をより充実させて、学科の魅力を向上させる。さらに、学生募集では志願者を増やして定員を充足するために、学科の魅力を分かりやすく伝えるとともに、魅力のあるオープンキャンパスを実施する。

学生へのサポート体制は、就職・進学・留学など学生一人ひとりが自分にあった学生生活をデザインできるよう、教員は、常に学生に寄り添い、日々の目標設計から学習指導、進路指導まで親身に取り組む。

既存のライフデザイン学科は、カリキュラム改革を進めて、教育内容の向上と就職先の新規開拓を目指すとともに、募集活動にも活用して定員充足を目指す。また、学生の成長を促し、生涯学び続けることができる自律した女性を育成するために、学生が「何ができるようになったのか」について自己評価と省察を行う学習ポートフォリオを継続して実施する。

助産学専攻科

学部教育から始まった助産師教育を、2018年度より専攻科に改組した。当初の3年間は、学部と専攻科が並行したが、2021年度より専攻科1本となり、学生の定員数も5名から10名となった。10名の定員枠は、若干名の内部推薦入試者と一般入試選抜者である。一般入試は当初、1次・2次試験と2回実施していたが、志願者増により、2022年度の入試より1次試験のみとしたが、2倍以上の志願者があり、また合格者からの辞退者も認めていない。今後もカリキュラムの充実に努め、在校生・修了生からも専攻科の魅力が伝わる学校に努め、一般入試の倍率を、2.5～3.0倍とする。

学修者本位の多様な教育の提供に努める。臨地実習については、教育効果を考え、実践的な思考能力（総合的に色々なことを把握する力、気づきなど）を養う。

2022年度、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更に伴い、カリキュラムを編成した。カリキュラムを通して、次代に求められる助産師の育成を今後も目指す。また、助産師国家試験の合格率100%を維持する。

リベラルアーツセンター

リベラルアーツ教育の主目標である、生涯を通じての人間形成を見据えて、光華のリベラルアーツ教育の目標を「思いやりの心と創造力を兼ね備えた人材の育成」に置く。教育の基盤となる「仏教の人間観」と「京都光華の学び」の上に立って、伝統文化、実用英語、健康スポーツ、AI・データサイエンスを重点分野とする。2022年度に採択された三菱みらい育成財団による「21世紀型教養教育助成金」を積極的に活用しつつ、教育内容の充実と教育方法の開発を着実に遂行する。具体的なターゲットとして、論理的な読解力と思考力を測るリーディングスキルテス

ト(RST)の有効活用、eラーニングと対面でのタスクベース・ラーニングの組み合わせによる実践的な英語力向上、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル、応用基礎レベル）の実施を設定する。

② 基幹研究の展開（研究力の向上、人材育成支援事業の獲得）

「健康・未来創造キャンパス」の実現と、ブランド構築につながる研究力の向上・社会実装を目指して自治体が進めるプロジェクトを通じた産学連携や共同研究を推進する。基幹研究においては、「健康・未来創造キャンパス」の実現に関わるプロジェクトを「よりよい」を科学するというキーコンセプトのもとに推進する。

・光華もの忘れ・フレイルクリニックと連携し、看護・医療福祉・健康栄養・心理分野における課題解決に向けた研究を推進し、地域連携・多職種連携の活性化を図る。

・産学連携によるデジタルを活用した教育機器やプログラムの開発、食のバリアフリー化、女子アスリートの食事と健康の関わり等、子どもから高齢者までさまざまな人が抱える課題の解決に向けた研究活動を推進する。

③ 学修・学生支援体制の向上

学修支援では、①多様な学生の学修機会を増やし学習効果を高める授業のあり方を検討する。②各学科・センターと連携しつつ学生への履修指導をより丁寧に行い、在学年限内に卒業できる学生の増加および退学防止に努める。③学習ステーションにおける学生主体のピアサポートシステムを継続する。以上により、学生サポート体制の更なる充実を目指す。

教職・保育職支援センターでは、ボランティア活動やインターンシップ、キャリアイベントなどを通して、多様な経験の蓄積や主体性の喚起と課題意識の啓発を促し、教員及び公立保育職採用試験対策と合格者の増加、教職・保育職志望者の確実な進路保障を目指す。

また近年、要支援学生の多様化、学生のメンタルヘルスの問題が複雑化してきており、学生支援としては、学生への早期対応、関係部署間の情報共有・連携、支援の一貫性を継続的に努めるとともに、学生相談室対応や予約の問題などの体制についても継続的に検討する。

④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立

主体的・対話的で深い学びの視点から教育支援ソフトの普及や、論理的思考を養う教育手法の展開、女性のキャリアを意識した指導方法の開発等、学生一人一人の可能性を引き出し伸ばす本学独自の教育・指導法の普及に努める。また、FD活動を通して「光華メソッド」の定義を点検・評価するとともに、学修成果の可視化の構築を再検討し、学修成果の把握と教育活動への活用を図る。GRITの強化（GRITは後天的に獲得可能なやり抜く力）とMindsetの転換（能力を褒めるのではなく努力を褒める）にも留意しつつ、ポストコロナにおける対面・オンラインのハイブリッド型授業の発展、数理・データサイエンス・AIの知識とスキルを養う実践的な「光華EDUALプログラム」や新しい英語教育プログラムを推進する。

⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化

他大学との連携により、それぞれ優位な教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現することを目的に、学生や社会人に対して、多様な教育プログラムを提供できるよう検討する。教育課程上の連携としては、授業科目の共同開設や合同講義の開講、教養科目の充実等によるシナジー効果を活用した教育課程の充実を推進する。また、国が進める大学等連携推進法人の枠組みを活用した新たな授業科目の連携開設、教学管理体制の構築、共同研究の開発等を検討する。コンソーシアム京都との連携強化としては、単位互換やインターンシッププログラムの提供、高大接続プログラムへの参加をはじめとするプラットフォームへの積極的な参画を継続し、「（公財）大学コンソーシアム京都中長期計画『第5ステージプラン』（2019-2023）」の各種取り組みと連動・連携を推進する。

⑥ 就職・キャリア開発・地域連携への支援強化

就職支援センターでは、DPに関連した進路イメージを留意し、学生が興味や能力に合った分野を見出し、その

分野への就職を実現する「就職満足度100%」を目指したサポートを行っている。「新卒採用は一生に一度の貴重な機会」であり、一人でも多くの学生が第一希望に内定できるよう、就職ガイダンスを中心にOG懇談会・各種セミナーを開催し、「コーキャリア（KOKA Career）」を活用した情報収集・提供に努め、多様なニーズに応えていく。

女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続を支援する調査研究、減災教育、社会人の学び直しやリスキング・リカレント教育、卒業生のネットワークづくりに取り組む。また、キャリア教育については、制度が変更された「インターンシップ」・「キャリア実習」を分かりやすく学生に説明し、就業体験を推進する。さらに、大学・短大の認証評価で本学の長所としてあげられた「学Booo」やボランティア活動を充実させる。

地域連携推進センターでは、「健康・未来創造キャンパス」の実現に向け、社会のニーズにあわせた地域連携活動の継続と発展、そして本学の教育・研究を生かした社会実装を推進する。新たな地域交流の場の創出として、「こども食堂」や「KOKAワクワク健やかフェス」を開催する。また、「健康・未来創造」や「認知症・フレイル予防」をテーマにした公開講座の実施、「まちやキャンパス」の活用、「TEAM EXPO 2025」共創パートナーや共創チャレンジの取組をすすめる。

⑦ 研究支援体制の充実

研究支援体制を充実させ、研究力の強化を図り、科研費や国の研究開発プロジェクトなどの競争的外部資金の申請を促進する。そのために、前年度と同様、個人研究費・特別研究経費、科研費申請を奨励するインセンティブ制度や学内説明会を継続し、研究アドバイザー等による申請書類の書き方、申請内容についての研究会を積極的に支援する。研究実績を積み上げるための支援として、研究成果の学術論文、研究レポート、レビューなどによる発信力を強化することを目指して、講習会・研修会を企画し、学術刊行物出版助成に注力する。加えて、社会実装につながる研究フィールドの開発や体制づくりを検討する。また、京都光華女子大学のブランド構築につながる基幹研究を支援するとともに、産学連携や共同研究（京都食ビジネスプラットフォーム、アート&テクノロジー・ヴィレッジ事業など）の支援体制を整える。さらに、2025年大阪・関西万博への参画につながる研究テーマの支援を行う。また、教員が研究に専念できる期間を確保するための制度導入に向けて調査を行う。

⑧ キャンパスのグローバル化の推進

国際交流センターでは国際交流委員会と協働し、コロナ禍で低迷気味となっている学生の海外への興味・関心をさらに醸成するよう、さまざまな機会を提供していく。そのために、目的別海外短期研修（語学、文化体験等）に加え、各学科の専門分野に合わせた海外専門短期研修を充実させるとともに、長期・セメスター留学、短期大学部留学制度における協定校のさらなる拡大を図る。

また、外国人留学生の受け入れにおいては、日本語学校との継続的なネットワーク構築や、多様な受入方法の検討・実施、海外からの短期研修等も積極的に受け入れを行う等、募集広報活動に注力する。

これらの施策に取り組むことで、外国人留学生・研修生がキャンパスに滞在することによる「環境型のグローバル化」と、日本人学生の海外滞在経験や外国人との交流によって語学力を向上し、多文化に対する幅広い知見を深めていく「経験型グローバル化」の実現を目指す。

⑨ 図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター・光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画

図書館

本学の建学の精神である仏教の思いやりの心に基づく健康・未来創造キャンパスの実現を支援するために、また、2024年度設置構想中の学科・専攻の専門分野に対応した図書・雑誌、データベース、電子図書の充実を推進

し、学術情報基盤としての役割を果たす。ラーニングコミュニティ「学Booo」に積極的に取り組み、多角的な教育活動の一端を担う。SDGsと連動した企画、地域社会への貢献の一環として、オープンライブラリー、中学生職場体験、社会人利用や卒業生などの図書館利用を継続する。ホームページ、SNSなどで広報を強化する。

真宗文化研究所

真宗文化研究所は、学園創設の建学の精神と校訓「真実心」に基づき、真に生命力をもつ真宗文化の本質、使命の探求、本学園の宗教教育の在り方、現代社会の諸問題への対応等を考究し、学内外へ啓発、訴求することを目的としている。

この目的を達成するために、仏教や真宗に関する研究、調査はもとより、広く学内外に開かれた研究所として、「聖典読書会」（マインドフルネス講座）、「オンライン仏教講座」を本学園の学生、生徒、教職員のみならず、一般の方々も対象に開催していく。また、学内外から講師を招き「宗教講座—豊かな人間性を目指して—」を年5回開催する。さらに本学の学生および教職員を対象とした浄土真宗ゆかりの地を中心として仏教関係の史蹟を訪ねる「聖蹟巡拝」を実施し、仏教・真宗への理解を深める機会とする。

継続的な研究活動としては、委嘱研究員制度に基づき研究員を学内外から公募により委嘱し、その研究成果を広く公開する。また、特別研究員、並びに客員研究員制度などの研究員制度を生かし、研究機関としての機能を高める。また、建学の精神の具現化に向けた宗教教育、仏教教育の在り方について、とりわけ仏教と実学の関係について研究を推進する。

本研究所の研究活動と本学の宗教教育の実践を学内外へ公開するため、刊行物として、「光華講座」の講演録と研究員の研究成果である論文を掲載する年報『真宗文化』および「宗教講座」の講話録である『眞實心』を発行する。同時にこの講演録、研究論文を一般の方々にも閲覧していただけるように本学リポジトリと本研究所ホームページに公開する。

カウンセリングセンター

カウンセリングセンターは地域に開かれた「こころの相談室」として、「子どもと女性の心に寄り添う」ことをモットーに、心理的援助を必要とされる方の気持ちに寄り添ったカウンセリング（個別の心理相談）を行う。また、本センターは大学院（心理学研究科臨床心理学専攻）附属の実習施設として、「公認心理師」および「臨床心理士」養成課程における重要な役割を担う。

カウンセリング等の相談業務に加えて、本センターが実施している親子教室では、就学前の子どもと保護者のふれあい遊びを行う「ひかりっこ＊くらぶ」と、子育て相談の「こもれびスペース」により、子育て支援への社会的ニーズに応える。2023年度は、面接時間の短縮や砂場の使用禁止等の新型コロナ感染対策のための制限を見直し、できるだけ以前の実施形態に戻していく予定である。その他、「京都光華女子大学カウンセリングセンター研究紀要」を2023年度も引き続き編集・発行する。

人権啓発センター

学生、教職員の一人ひとりが心理的、身体的に安全かつ快適な環境で勉学や研究に専念し、全ての人の人権が尊重され、お互いが相手の立場を重んじることができる良好なキャンパス環境を維持するため人権に関する啓発活動に取り組む。主に学生を対象とした「人権映画鑑賞会」「人権講演会」では、身近に起こりうる人権問題、あるいは、社会的な人権問題への認識等に着目したテーマ選定を行っていく。教員対象の「人権研修会」については、教育活動に有益なテーマを宗教・人権・真宗文化委員会と協議のうえで設定し実施する。これらの啓発活動においては、教員・職員へも参加促進を行い、FD・SPにも活用できるようにする。

また、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等全てのハラスメント防止となるよう、引き続き、啓発冊子「ハラスメントのないキャンパス・ライフ」の配付を行う。

光華もの忘れ・フレイルクリニック

2023年度は習慣について、より効果的な対策を行う。すでに院長の上田が2022年度に認知症サポート医の資格を取得済みであり、認知症初期集中支援チーム、あるいは近隣の地域包括支援センターとの協業を推進し、

講演会の開催、ケースカンファレンスへの参加を通じて、本クリニックの機能や役割について、地域の支援者に対してわかりやすく説明を行っていく。地域住民への貢献については、年間を通じ、認知症に関する様々な話題を、各学科や専攻との協力体制のもと、講演会や非薬物療法の体験会などを通じて提供していくことを予定している。また、本学内にクリニックを設置した意義として、学生教育への利用が挙げられ、現在「クリニックを活用する多職種連携検討の会議」を月に一度の頻度で開催し、各学科、専攻における学生教育への利用を検討中である。2023年度は、正式な授業の中ではなく、課外活動や実習の一部をクリニックが担えるような形での、試験的な学生参加の枠組みを運用する予定としている。

(3) 経営基盤の強化

① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動

2024年度学生募集戦略において、「営業活動重視」「PR項目を研ぎ澄まし、インパクトを与える広報」「高大接続・連携の一層強化」を三つの活動方針と定め、2024年4月に設置予定の看護福祉リハビリテーション学部福祉リハビリテーション学科作業療法専攻および短期大学部歯科衛生学科の初年度入学定員充足はもちろん既設学科・専攻の入学志願者の底上げ、ひいては、全学科・専攻での入学定員充足を目指す。

広報活動においては、健康・未来創造キャンパス構想のもと、「Well-Beingの実現を目指す大学」というブランドイメージの構築、周知、浸透させるためのキャッチコピー『For Future Well-Being』（校訓「真実心」のもと、「すべての人が健やかに暮らせる＝“Well-Being”」な未来の実現を目指し、地域に開かれ、人々に寄り添う人材育成拠点として社会の要請に応える大学）を継続して掲げ、本学の目指す方向性について、TVCMなどのマスメディアも効果的に活用し、期待感が膨らむ広報展開を徹底的に行い、知名度・認知度を向上させるとともに、京阪神地区における唯一無二のポジションを確立する。

募集活動においては営業活動（高校訪問、ガイダンス）を最重要施策とし、現場ニーズに即した丁寧な高校訪問を早期から仕掛け、志願意欲を掻き立てるオープンキャンパス等のイベント運営、普段の学生の姿や教員の研究成果などのとめどない情報発信、受験生によりそう入試制度設計など、全学をあげて教職協働で取り組み、年内入試の志願者獲得に注力する。さらに、安定的な入学志願者の獲得につながるパイプの形成施策として、高大接続プログラムを各高校現場へ積極的に提案し、新規層を開拓することで志願者層の裾野を広げ、入学定員充足を目指す。

② ガバナンスコードの策定と運用

私立大学として主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、私立大学の教育・研究・社会貢献の機能の最大化を図り、社会的責任を全うするため、ガバナンスコードを策定してホームページに公開している。大学運営においては、これを指針として取り組んでおり、適合状況、実施状況については、学園監事による監査および中長期計画の進捗度の点検や大学の自己点検・評価の中で点検されている。監査報告書および大学基準協会による認証評価の結果については、それぞれ運用が適切であること、大学基準協会の基準に適合しているとの評価を得ており、今後も適切な運用と点検評価・改善に努める。

③ SD実施強化の検討

「学校法人光華女子学園SD規定」に則り、教職員のモチベーション向上やコンプライアンスを徹底することを目的に、教職員を対象に階層別・分野別にSD研修を実施している。学内においては、新規採用事務研修をはじめ、全職員対象の夏季職員全体研修、管理職を対象とした管理職研修のほか、教職員を対象とした人権研修会、研究倫理教育、情報セキュリティ教育を実施して研究倫理の徹底、ハラスメントの防止、個人情報保護と情報セキュリティの向上に努めている。また、職員の学外研修として、本山研修（東本願寺）、大学SDフォーラム研修

(日本能率協会)、京都大学私学経営アカデミー(京都大学)へも参加している。今後は、SDの捉え方を拡大し、教職協働で大学を運営するために必要な資質向上を図るための方策も検討していく。

④ 大学・短大における基金の設立

個人、企業、財団等からの寄付金の受け入れ体制を構築する。すなわち、研究資金獲得のための光華研究ファンド(仮称)の創設の検討、用途に応じた寄付の仕組み、在学生と卒業生のネットワークを強化するための寄付金制度を整える。さらに、同窓会、地域企業や各種団体との連携を強化するため、大学の教育・研究活動の情報提供を行い、セミナーやリカレント教育などの共同事業について検討を進め、教育・研究支援における寄付の重要性について理解を得る。また、コロナ収束後に大学関係者による同窓会の総会や支部会、大学イベントへの参加を促し、在学生との懇談会、調査研究やビジネスにおける連携、まちやキャンパスの活用などの共同事業を推進する。

2. 高等学校・中学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

こころの教育の充実

宗教科とその他の先生と生徒による礼拝と感話

Healingplaceの充実 SC・支援員・生サポ・保健室の協働 困り感のある生徒へのサポートで転退学の抑制

② 体験・探究学習×教科学習×Edtech

探究の特色化 中学&各コースの特色を打ち出す

双方型授業の実施 Metamojiの活用

探究の特色化 中学&各コースの特色を打ち出す

③ 言語活動と異文化理解教育

英語検定全員受検 「英検祭り」の実施 英検取得の進捗管理

高3 在籍生徒の5割2級一次試験突破 1割準1級取得

英語弁論大会の校内実施 イングリッシュコンテストへの参加

異文化理解学習発表会の充実 小中高への発信

国語教育の充実 図書館教育の充実

(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方

教科会議の充実

教師力の向上 授業力の向上 研修・自己研鑽・アンケート活用

コースの特色化 コースの特色を授業に反映

教科系ビュッフェの充実 コースの特色を打ち出す 学力補充

ビュッフェの充実と精査 定員充足 数の精査

StudyHallの運営の見直し 中高全員を対象に場所と人を調整 校内塾の利用促進

② 働き方改革に向けて

教頭による業務量の偏りの是正

原則月1回の土曜日出勤

クラブ活動の平日休日の休みを確保

ICTを活用した時短

会議の精選と短縮化

(3) 教育環境の充実

①ハード面、ソフト面での環境整備

コースの特色を生かした特別教室の設置 医療貢献特別教室 Englishcommonsの充実
学校生活の見直しで生徒満足度向上

窓口の明確化とクイックレスポンス 教頭窓口の一本化

生徒面談の充実 担任・リーダーとの信頼関係を築く

保護者との良好な関係性 密な連絡 担任・リーダーとの関係構築

校則や制服の見直し 時代・生徒のニーズに沿っているかの検証 改正

各種アンケートの積極的活用 アンケート結果による学校生活全般の見直し是正

進路指導の充実 担任は進路指導のプロとなる

キャリア教育の充実 卒業生によるキャリア講演会の実施(全教員の協力)

(4) 経営・運営基盤の強化

①志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

小中高入試広報部体制の強化と全教職員あがっての募集活動の実施

中学入試対策 中学入試のプロを育成

中学・塾訪問部隊の拡充 入試広報+管理職+リーダー+学年付での担当

OC/入説の充実 主体的・積極的な全教職員体制

ターゲット層を意識した募集広報活動の実施 SNS等の積極的活用

奨学金に頼らない募集 中学奨学金制度の見直し

入学者による口コミ広報への誘導強化 生徒保護者満足度の向上

地域や小学校との連携 地域に愛される学校づくり 行事や授業クラブとの交流

②高大接続・連携の強化

大学入学広報センターとのビュッフェ・出張講義の企画実施

内部進学促進に向けた取り組みの強化 大学と学年と進路部の協働

他大学との高大連携の促進 DIVE!の実施

3. 小学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

2022年度からタスフォース「宗教」が設置され 校訓「真実心」具現化するための取り組みをスタートしている。小中高を通して、とりわけ仏教教育を基盤に据え、伝統文化教育や礼儀マナー教育、異文化理解教育、言語教育を用いて、本校に入学したすべての生徒が享受できる全人・教養教育として「光華リベラルアーツ」を策定し運用を始めている。

各種宗教行事の実施要項に基づき、教職員においては、共通理解のもと共通実践していく。また、本校教育の基本でもある宗教教育を充実させていくために、会議の後に毎回「宗教」研修の時間を10分程度確保し、数強についての理解を深め日々の指導に生かしていく。さらに、学期一回の講堂礼拝も継続して実施していく。

建学の精神に基づく宗教教育をしっかりと進めていくために、教職員自らが仏教教育について正しく理解し、実践につなげ、生徒に伝播・薫習できるようにする。

地域とともにある学校、地域に愛される学校であるために、地元自治会と連携した桂川清掃等に取り組むなど積極的に地域貢献活動等に取り組むようにしていく。学校においても、開かれた学校を目指し、学校開放デーなどの地域交流活動にも積極的に取り組んでいく。伝統文化教育のアウトプットも地域に対しても積極的に行っ

ていきたい。

また、日常的な活動においても学園としても取り組んでいる環境問題を意識した地域共生活動の推進を「おおきに祭」の時に実施する「光華環境デー」を基点として図っていく。

なお、2023年度新入生から宿泊を伴う本山研修としていく。

② 体験・探求学習×教科学習×Edtech

幼稚園・小学校・高校・大学との連携を強化し、総合学園の強みを生かしながら宗教、英語教育、教育手法それぞれのタスクフォースを練り上げていく。タスクフォースの進捗状況を確認するために年度末には外部発信も兼ねて「宗教」「英語」「教育手法」それぞれのタスクフォース担当からの研究報告を行っていく。

全学年デバイス導入2年目となることからデバイスの活用率を上げるだけでなく、運用方法についても様々な場面で使えるようにしていく。特に、フィールドワーク等における活用は有効であることからこうかタイム(「探究活動」「STEAM教育」)でも様々な活用方法を探っていく。

③ 言語活動と異文化理解教育

図書館教育も充実させながら母語である国語教育の充実をまず図っていく。その上で、光華といえば英語といわれるようになることを目指し英語力を高めていく。一つの手段として特定学年において英語検定を全員受検とする。光華小学校卒業時には英語検定3級取得を目標としていく。また、興味・関心を高め身についた力をアウトプットしていくために英語弁論大会の校内実施や光華イングリッシュコンテストへの参加を積極的に行っていく。

異文化理解教育については、授業における異文化理解に終わるのではなく、保護者のニーズも強い夏季休業中の短期留学のシステムを今後検討していきたい。

(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方

光華小学校が大切にしてきた仏教教育をベースとした安全・安心な学校、楽しい学校を保持しながらこれからの時代に対応していくことのできる力を身につけていくためにどんな教育をしていくのか6年間の学びのつながりが見えるようにしていく。

その検証の機会として、11月には大学とも連携し公開授業を行っていく。2月には各学年において1年間でのような力が身につく発表の機会も設定していく。

② 幼小連携教育の充実

教育のより一層の充実、内部進学率の向上も目指して、幼小連携会議を定期的に行い、交流活動の充実、教師間の意思疎通の充実を図っていく。小学校参観日に幼稚園保護者を招待するなどの取り組みも検討し、開かれた学校づくりもあわせて行っていく。

③ 働き方改革に向けて

学校体制、管理職体制の在り方を抜本的に見直し、組織のスリム化を図りつつ、会議時間の短縮を行い、業務推進しやすい環境を作っていく。また、土曜日の活用方法を中高でそろえていくことにより、中高教職員のコミュニケーションも取りやすくし、お互いの意見を出しやすい雰囲気づくりに努めていく。

常に働きやすい環境づくりを意識し、必要に応じて情報の全体共有をしながら改善を図っていく。

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

児童・保護者が何かあれば相談しやすいように窓口を明確化するとともに、クイックレスポンスできるようにしていく。そのために分かりやすい組織づくりを常に意識していく。また、児童の不安や悩みに早期に対応していくために適宜児童面談を実施するなど面談の充実を図る。同じく、保護者との良好な関係性を築くために密な連絡をとっていくようにする。ニーズに応えるための担任との関係構築を重要視していく。

日々の生活の基本となる生活の決まりについても、時代に沿っているか、児童・保護者のニーズに沿っているか

の検証もしながら生活の決まりの見直し、改正に取り組んでいく。

授業アンケートや保護者アンケートの結果をしっかりと分析し教職員全体で共有していく。改善等が必要な内容についてはスピード感をもって対応するとともに、学校生活全般の見直しや是正をしていくために各種アンケートの結果を積極的に活用していく。

学力の確実な補償、進路保障に向けて、放課後に週3回「がんばりっこ」の時間を設定していく。学級担任が学級の児童の実態に応じて応用的な学習や補充的な学習に取り組むものである。

(4) 経営・運営基盤の強化

小学校全教職員あがりの募集活動を進めるにあたって、様々な取り組みを円滑に進めるために小中高入試広報部との密な連携は必須である。そのために、まず、校務分掌上に入試広報担当を役割別に複数配置し業務内容を明確にしていくことが必要である。そのうえで、様々な取り組みを展開していきたいと考える。

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

a. 幼稚園・保育園訪問の強化

新型コロナウイルス感染症感染予防対策により幼稚園・保育園への立ち入りも規制されることが多く、この3年間は、教員による幼稚園・保育園訪問が十分にできていない状況である。そこで、幼稚園・保育園担当と入試広報部が連携し、まずは重点訪問幼稚園・保育園を洗い出したうえで、全教員に訪問園を割り振り、春季(5～6月)と秋季(10～11月)に入試広報の一員としての自覚をもって訪問活動を行っていく。その際、単に光華小学校の説明に終わるのではなく、学校運営、学校づくりに生かすために各園における私学小学校ニーズも把握していくようにしていきたい。

b. 出身幼稚園、保育園への児童成長報告のための随時訪問を強化

2023年度に受けもつ学級の児童の出身幼稚園・保育園を成長の報告ができる行事や特色取り組みの後などのタイミングで訪問を計画していきたい。特に、記憶の新しい低学年では確実に実施していきたいと考える。また、訪問するだけでなく、園関係者が卒園児の保護者とも会うことが可能な参観日の機会などをとらえ学校に招待することも考えていきたい。

c. オープンキャンパス、学校・入試説明会の充実

まずは、参画意識を持ち主体的、積極的にオープンキャンパスや学校・入試説明会に取り組む全教職員体制の構築を行っていく。担当部署、担当者任せではなく自発的なアイデア出しをするなどの姿勢を培っていききたいと考える。

また、児童保護者の満足度を高める取組等実施の後に、入学児童の保護者によるプラスの口コミを増やしていくためにSNSへの誘導も強化していくことが必要である。

② 収支改善に向けて

収支改善を図っていくために以下のことに取り組んでいく。

a. 児童確保に向けた取り組みの強化

上記に示した内容を確実に実践していくとともに、進捗状況について学期ごとに検証、確認し、改善が必要なものについてはスピード感をもって対応していく。特に小学校の場合、8月下旬に実施されることから4月当初よりやるべきことを確実に実施していくことが重要であり、1学期については毎月の進捗確認も必要である。教職員一人一人が光華小学校の入試広報の一員であることを自覚しながら業務遂行にあたりたい。

b. 組織のスリム化

迅速かつ的確な業務遂行をしていくために風通しの良いシンプルな組織を目指していく。また、報告・連絡・相談を確実にやり様々な案件に対しスピード感を持って対応していくことで、児童・保護者の満足度も高めていく。

c. 人件費の適正化

児童数に応じた教職員数の在り方を教育全般を俯瞰し検討し、その上で合理的かつ効率的なカリキュラム編成をしていく。

d. 予算執行の厳格化

例年通りであるとか「今までは」の考え方から脱却し、何のために何をするのか、そのために何が必要であるのかを常に考えながら予算執行にあたっていく。

e. 外部資金（補助金等）の積極的な獲得

4. 幼稚園

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

年齢に応じた計画的な宗教教育の実施

「光華の心」について全教職員が理解できるよう研修会への積極的参加

学園の宗教行事や宗教教育の内容を保護者へ発信、宗教教育の理解と浸透を促進

② 魅力ある光華教育の構築

「主体性と社会性の基礎を身につけ、学びに向かう意欲を備えた子どもを育てる」ことを教育目標

とし、保育内容や環境を充実

英語教育「Koka English」の更なる充実

③ 効果的な教育手法の研究

Jolly Day（異年齢保育）、Koka English（英語活動）、Campus mate（学園内連携）の取り組み内容の充実

(2) 教育研究体制・質の向上

① 満3歳児保育の充実と将来構想

満3歳児についての実態と保護者のニーズを把握、4年間を見通した教育課程の見直しと保育の強化

② 活気ある教職員体制づくり

園務分掌による教職員の役割の明確化

若手教員や新規採用教員へのサポート体制の整備

教育力の向上、自己啓発の推進

園内での事例研究や公開保育の実施

教務、学年主任を中核としたチーム保育実践

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

ICTを積極的に活用した幼稚園教育の可視化

幼・小・中・高・大（短）の教育施設や人的環境を最大限に活用した幼稚園教育の実施

園庭の広さや豊富な植栽等を生かした更なる環境の在り方について検討

施設設備の修繕や改善の実施による保育環境の充実

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入園者確保につながる戦略的募集・広報活動

全教職員による募集活動の実施

他園の情報を収集、募集戦略の見直し立案

年間を通じた募集活動の計画、実行

保護者のニーズを的確に把握、外部への更なるアピール

保護者が求められる情報（子育て支援活動、幼稚園案内等）の見直しと発信回数の充実

就労保護者への動画配信による入園説明会やイブニング園見学、個別対応の実施

小規模保育園や児童館との連携強化

②0歳児からの子育て支援活動の推進

100%入園を目指した親子保育の実施

安心安全な遊び場の提供、在園児との交流や幼稚園の催しへの参加、他校種の教員との連携による、未就園児の保護者支援の充実

③就労家庭のニーズに寄り添う預かり保育と課外教室の充実

インターンシップや授業内交流、学生ボランティアを活用した預かり保育の保育内容の充実

課外教室の更なる充実 光華小学校進学後の継続利用

充実した預かり保育利用による、就労家庭の幼稚園利用の促進

④内部進学増につなげる幼小連携の充実（内部進学率25%）

全教職員、光華幼・小・中・高・大、一貫教育の内容を熟知し、一貫教育の重要性をアピール

保護者参加型の活動も含めた小学校との交流を年間計画に位置づけ、内部進学を促進

大学（こども教育学科）の協力のもと、幼稚園と小学校の接続期の充実したカリキュラムの作成

⑤収支改善に向けて

・園児確保に向けた募集活動の強化と確実な実施

・園児数に合ったクラス数と教員体制の構築

・新たな観点から予算の見直しを実施

・補助金獲得の見直し

5. 学園事務局

（1） 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）

2023年度は、「光華ビジョン2030」実現に向けた中期計画「The Road to 2030 -ACT1」の4年目にあたるが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響から、当初計画の変更が必要となるため、中期計画（事業計画・収支計画）の内容を精査し、一部見直すこととする。合わせて、中期計画の進捗は、KPI（Key Performance Indicator 重要業務評価指標）にて、当該年度の事業実績を定量的に管理しているが、管理フローそのものの検証、改善も図ることとする。2023年度の主な取り組みとしては、大短新学科・新専攻設置の準備（作業療法専攻・歯科衛生学科、2024年度開設計画中）及び大学健康科学部二学部化の準備（看護福祉リハビリテーション学部・健康科学部、2024年度開設計画中）、小中高新教育の推進、幼稚園の募集戦略強化、北校地新棟建設・改修工事、学園情報インフラ整備が、財政健全化の取り組みとしては、学生生徒等納付金収入・補助金収入の増加策、人件費・施設設備費・奨学費の適正化、各施策の効果検証と予算配分見直し等が挙げられる。

（2） 2023年度事業活動収支の改善

学校法人は、絶えず教育の質の向上に取り組んでいくため、財務体質の強化を図り、健全経営を実現し、施設設備への適切な投資とF D・S Dの積極的な取り組みを進めなければならない。本学園はこれまで各設置校園の教育の質の向上を図るため、時代のニーズに合致した教育改革を展開してきた。しかしながら、事業活動収支は2018年度および2019年度の黒字決算以降、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する対策や学園

独自の経済支援、2021年度および2022年度は小学校・中学校新棟建設やバリアフリー化や補修工事に伴う支出から、赤字決算となった。2023年度は大学における二学部化と作業療法専攻設置（設置準備中）、短期大学部における歯科衛生学科設置（設置準備中）に向けた準備として大規模な先行投資年度となるが、各設置校園における収支均衡を具体化させる施策を明示し、今後安定的な黒字経営が構築できる収支改善策を図ることとする。大前提は各設置校園における募集強化であり、全教職員一丸となって取り組むこととする。また学生生徒納付金および経常費補助金等の収入に見合った支出抑制策として人員の適正化を図る必要がある。

（3） 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得

採択型事業補助金等、補助金の採択に向けた調査・方策を機動的に発動し、申請することで大型の競争的補助金の獲得を図る。2022年度も改革総合支援事業補助金は採択されず、残念な結果となってしまったことを踏まえ、より一層の研究と実践が必要である。また、経常費（運営費）補助金、特別補助金においても、各校園・部署間での連携を強化し、補助金情報を的確に把握することで確実な補助金の獲得に努める。

光華ビジョン2030の実現を目指し、施設整備事業やICT促進、DX推進、各種教育改革などを目的に、卒業生や保護者、関連企業等有縁者の方々や教職員に対し、「華の煌き募金」を継続的に募る。また、資産運用については、その目標額を1.50%以上とし、リスクを抑えた安定性の高い運用を実施する。投資リスク軽減のために運用資産ポートフォリオを策定したうえでの投資を基本とする。

（4） 事務局の組織再編と職員力の強化

業務の効率性を高めるとともに、結果にコミットできる組織運営・体制の構築を目指す。特に人口減少による学生生徒等確保の重要性の観点から、各校園の入学者数目標達成のため、募集広報業務に注力した組織構造にする。学園DX推進部においては、業務のデジタル化（同窓生名簿管理システム、証明書発行業務効率化、ワークフローの導入検討等）を進めているが、引き続き、労務管理システム等新たなシステム導入を検討し、業務効率を高める。職員能力開発については、所属目標と個人目標を経営・運営方針に沿ってそれぞれ再考し、成果を出すための徹底した進捗管理体制のもと、個人に対してはその結果を業績評価制度（MBO）にて適正に評価すること、また職員研修制度の体型（全体研修・資格別研修・学外研修等）と内容を充実させること、双方により職員のパフォーマンスの向上を図る。なお職員研修や学外調査等によって、職員の新たな価値創造や発想の転換、実践力（技術・手法）習得、学外者・機関との接点強化等を目指す。加えてPJ型業務への登用、免許・検定・資格取得等支援制度等により、職能基準に応じた資質・能力の向上を図る。組織力と個人能力を向上により結果につなげ、持続可能な働き方ができる環境づくりに取り組む。

（5） 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

自然災害（地震・火災・水害・豪雨等）や感染症に迅速に対応できる組織・体制を強化し、BCPやマニュアルの整備の定期的な見直しを行う。さらに、適正な備蓄品を確保、全学的な防災訓練の企画・実施など、危機管理体制のさらなる改善強化を図る。

また、改正私立学校法（役員の職務・責任の明確化、情報公開の拡充、中期計画の作成）および大学版ガバナンスコードに基づき、各種ハラスメントの防止、個人情報保護・管理等法令改正内容に即した各学園諸制度・諸規定の整備・改定を適切に行う。あわせて内部監査機能の充実を図る。

（6） NPO法人（京都光華アカデミック&スポーツクラブ）の事業展開

京都光華アカデミック&スポーツクラブは、「専門指導者の下、学術・芸術・文化・スポーツ活動並びに幼稚園・初等・中等・高等教育における課外活動の指導」を目的としている。特にK+RunningClubの発展充実および幼小中高大の放課後活動への指導者派遣を行うことや、地域住民も巻き込んだ活動を展開していく。今後は、幅広い分野での指導を視野にいれた活動を行い、経営基盤の強化を図り、地域のプラットフォーム校として貢献することを目指して取り組む。

（7） 各種団体との連携

永続的な光華ファンとして支援いただけるよう、有縁者である同窓生や旧教職員との連携強化を図るための組織体制を確立し、交流の機会を増やす。そのため、本学の取り組み（学園行事・公開講座・講演会等）を定期的にHPに掲載する。また、各校園の保護者会組織との連携強化も図る。

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画

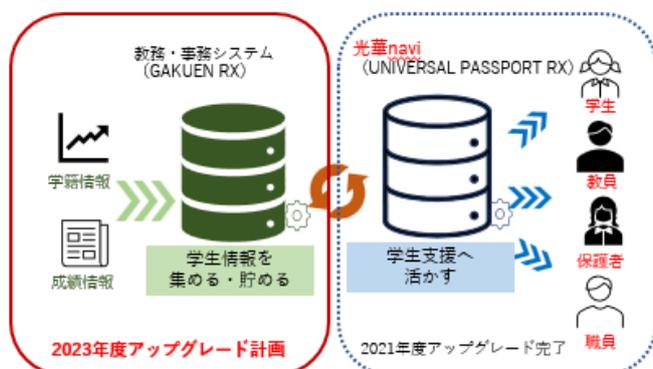
大短将来計画に伴う新棟建築
5号館1階・6号館3階歯科衛生学科（仮称）開設に伴う施設整備
5号館・6号館漏水箇所整備
慈光館2・5階作業療法専攻（仮称）開設に伴う施設整備
慈光館南側外構及び北側歩道整備
2号館3階シールドルーム設置

2. 設備整備計画

建築設備定期更新
空調機器老朽箇所更新
エレベーター設備定期更新
消防用設備定期更新
災害時備蓄品定期購入

3. ICT教育環境の整備

学びの複線化・多様化・デジタル化に相応しい教育環境の提供を目指し整備を進めており、2023年度は新棟全域のネットワーク整備を行う。各校園において Bring Your Own Device による端末の持込み率上昇に伴い、今後の機器リプレースや配線見直し計画を立案する。大学の教育・業務システム（GAKUEN）のバージョンアップ（下図）や小中高の教務システム更新の後方支援、OS 保守期限切れに伴う各種サーバのリプレースについては、利便性向上も視野に入れ再構築する。



Web 授業環境の継続維持、通信教育課程なども視野に入れた、ストリーミングサーバ導入の検討、老朽化端末のリプレース、DX 推進の後方支援を行い教育・研究、事務業務の効率向上に寄与する。セキュリティ対策の強化は必須であり、学内ネットワークの監視強化、体系立てた情報セキュリティ意識向上の取り組みを継続するなど、インシデント発生の抑制を目指す。更に今後必要となるセキュリティアプライアンスの追加導入の検討や補助金など外部資金の獲得を図り、教

育・研究環境の最適化を目指す。

IV. 2023年度予算

2023年度事業活動収支予算

(単位:百万円)

科 目		2023年度 予算 (A)	2022年度 予算 (B)	差 (A)-(B)	
教育活動 収支	事業活動 収入	学生生徒等納付金	2,991	3,254	▲ 263
		手数料	37	37	0
		寄付金	18	24	▲ 6
		経常費等補助金	817	941	▲ 124
		付随事業収入	51	66	▲ 15
		雑収入	120	123	▲ 3
	教育活動収入計		4,034	4,445	▲ 411
	事業活動 支出	人件費	2,765	2,822	▲ 57
		教育研究経費	1,630	1,735	▲ 105
		管理経費	308	306	2
徴収不能額等		4	5	▲ 1	
教育活動支出計		4,707	4,868	▲ 161	
教育活動収支差額		▲ 673	▲ 423	▲ 250	
教育活動 外収支	事業活動 収入	受取利息・配当金	105	60	45
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	105	60	45
	事業活動 支出	借入金等利息	15	7	8
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	15	7	8
教育活動外収支差額		90	53	37	
経常収支差額		▲ 583	▲ 370	▲ 213	
特別 収支	事業活動 収入	資産売却差額	0	1	▲ 1
		その他の特別収入	14	15	▲ 1
		特別収入計	14	16	▲ 2
	事業活動 支出	資産処分差額	2	84	▲ 82
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	2	84	▲ 82
特別収支差額		12	▲ 68	80	
予備費		30	30	0	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 601	▲ 468	▲ 133	
基本金組入額		▲ 192	238	▲ 430	
当年度収支差額		▲ 793	▲ 230	▲ 563	
事業活動収入		4,153	4,521	▲ 368	
事業活動支出		4,754	4,989	▲ 235	
事業活動収支差額比率		-14.5%	-10.4%	-4.1%	
人件費比率		66.8%	62.6%	4.2%	